

氏名：小山 花子 様（仮名） 性別：男 ・ **女** 年齢 45歳 住所 A市

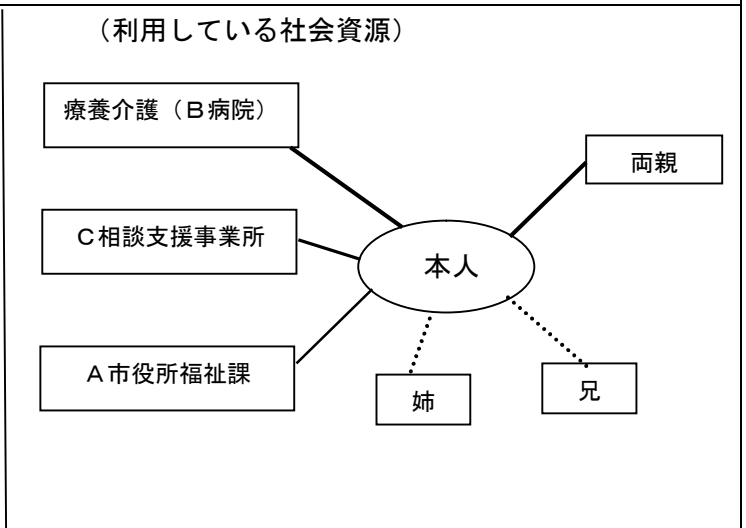
診断名： 脳性麻痺・てんかん
 手帳： 療育 A1、身障 1種1級
 年金： 障害基礎年金 1級
 支援区分： 区分6

体格・特徴
 身長140cm 体重39kg
 色白で目がぱっちりしている

事例提出の理由または意図：
 現在、療養介護を利用。12歳の時から30年近く自宅外で生活を送っている。家族は“医療的にも安心して過ごせる環境で生活してほしい”と希望している。重症心身障害のため、本人の意思を明確に汲みとることは難しいが、楽しい時は笑顔を見せるなど、感情表出は可能である。30年近く病院での生活のため、医療面や環境面での安全は確保されているものの、単調な生活になりがちである。家族や支援者以外との関わりや外出の機会も少ない。同じ環境の生活の中でも、本人らしい生活とは何かを検討し、生活に張りをもてるような支援方法について、皆さんからのご意見をいただき、今後の支援に活かしたい。

(本人の希望)
 ・外出したい、外出が好き
 ・父、母が大好きで一緒に過ごしたい
 (散歩時や家族と面会時に笑顔がみられる)

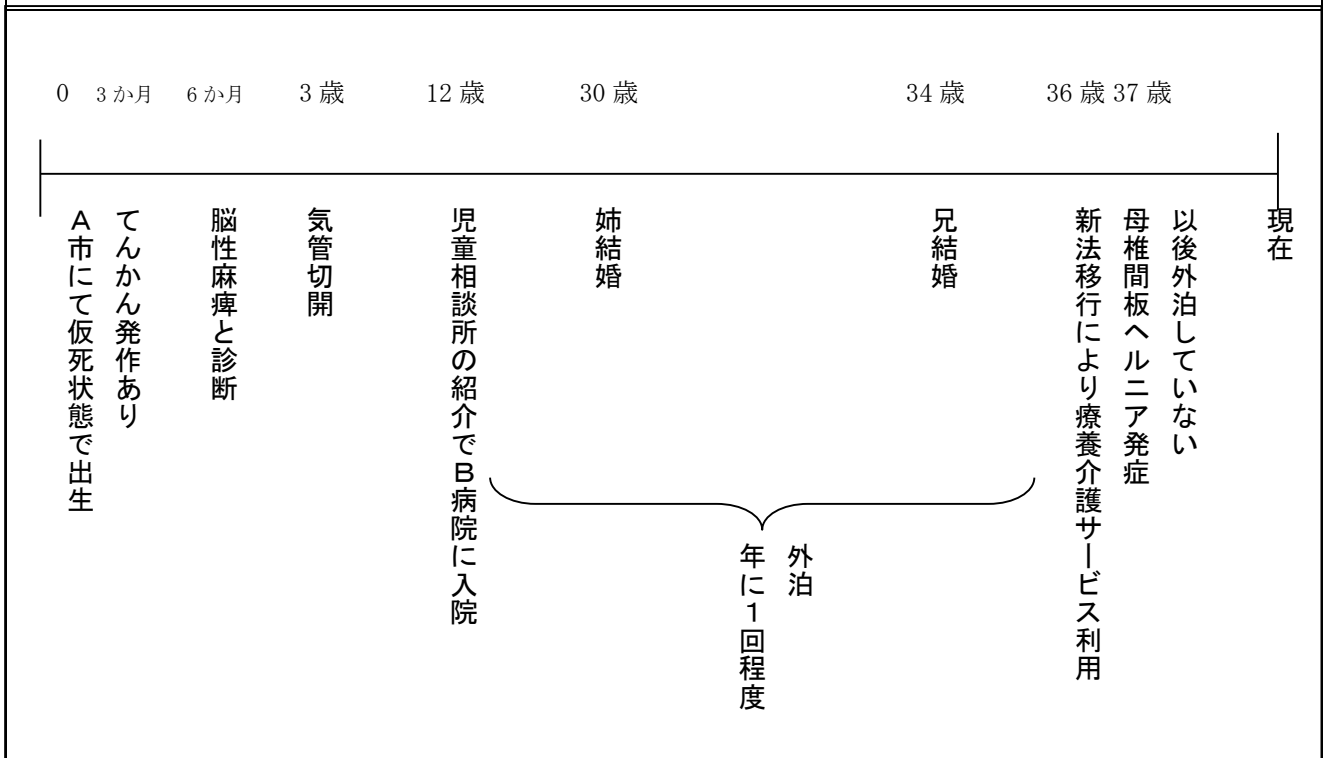
(家族の希望)
 両親：医療的にも安心して過ごせる環境で生活してほしい



家族構成・関係 (ジェノグラム)

父	78歳	他市在住
母	77歳	他市在住 椎間板ヘルニア
姉	50歳	他県在住 子どもが1人
兄	47歳	他市公務員
本人	45歳	療養介護利用中

生活歴および支援経過



<p><ADL、IADL> ADL：全介助 右手でスプーンを持ち 口元まで動かす動作あり 移動：全介助 ローリングで移動可、 普段は車椅子利用 排泄：全介助 常時オムツ使用 服薬：全介助 てんかん薬を病院で管理 金銭管理：全介助 両親管理</p>	<p><対人> 楽しいと笑顔がみられ、喜怒哀楽の表出あり <趣味> 人形やぬいぐるみが好き <医療的ケア> 気管切開</p>	<p><生活サイクル></p> <table border="0"> <tr><td>5:00</td><td>起床</td></tr> <tr><td>7:00</td><td>朝食・服薬</td></tr> <tr><td>7:30</td><td>オムツ交換・清拭・水分補給</td></tr> <tr><td>10:00</td><td>リハビリ・グループ活動</td></tr> <tr><td>12:00</td><td>昼食・服薬</td></tr> <tr><td>14:00</td><td>リハビリ・入浴等</td></tr> <tr><td>15:00</td><td>オムツ交換・水分補給</td></tr> <tr><td>17:00</td><td>夕食・服薬</td></tr> <tr><td></td><td>自室で個別活動</td></tr> <tr><td>21:00</td><td>服薬・就寝</td></tr> </table>	5:00	起床	7:00	朝食・服薬	7:30	オムツ交換・清拭・水分補給	10:00	リハビリ・グループ活動	12:00	昼食・服薬	14:00	リハビリ・入浴等	15:00	オムツ交換・水分補給	17:00	夕食・服薬		自室で個別活動	21:00	服薬・就寝
5:00	起床																					
7:00	朝食・服薬																					
7:30	オムツ交換・清拭・水分補給																					
10:00	リハビリ・グループ活動																					
12:00	昼食・服薬																					
14:00	リハビリ・入浴等																					
15:00	オムツ交換・水分補給																					
17:00	夕食・服薬																					
	自室で個別活動																					
21:00	服薬・就寝																					

<現在の状況>

12歳時から入院、現在療養介護利用中。30年以上親元から離れての生活が続いている。体調面は、服薬等でてんかんも落ち着いている。ローリングでの移動が可能であるが、危険認識が低く、安全面への配慮が必要である。安全面を確保しながら、他の利用者とグループ活動や個別リハビリを受けている。家族（主に両親）との関係は良好で、両親は車で他市（車で90分）から月1回面会に来ているが、年齢的に長時間の運転には大変さを感じており、面会に来れない時もある。姉と兄とは関係が悪いわけではないが、数年に1度面会に来ている程度である。

病院内のレクリエーションや行事には参加しており、笑顔が見られることから楽しいと推測される。家族との外出も検討したものの介助が困難で、病院内の庭を散歩する程度である。他者との交流も病院内での関係に留まっている。両親が金銭管理を行っているが、高齢でもあり、今後のキーパーソンについては決まっていない。

【出された支援アイデア（⇒主たる担当者・調整する人、おおよその時期）】

2（# 4）

- ・手を使って繰り返して自ら遊べる活動を試す（PCソフト）
 - ・残存機能のさらなる維持（生活動作を増やす）
 - ・朝、夕の食事の自力摂取にトライする
- } ⇒（支援員、6か月以内）

4 # 6

- ・集団で行うゲームや言語以外のコミュニケーションを通して他者との交流を図る。（コミュニケーションツールを広げる）
- 例）ボタンを押すと光る ⇒（支援員・県作業療法士、6か月以内）

3・家族と過ごせる機会をつくる

- ・面会時間内に活動を見てもらい、一緒に散歩する ⇒（家族）

- # 1・本人にとっての安全な環境を維持する
 - ・今までの安全な環境とは何か再度確認する
- } ⇒（支援員、1か月以内）

- # 5・親亡き後の家族支援について、話し合う機会をもつ（キーパーソン 親→兄弟）
- ⇒（相談支援専門員・支援員、12か月以内）

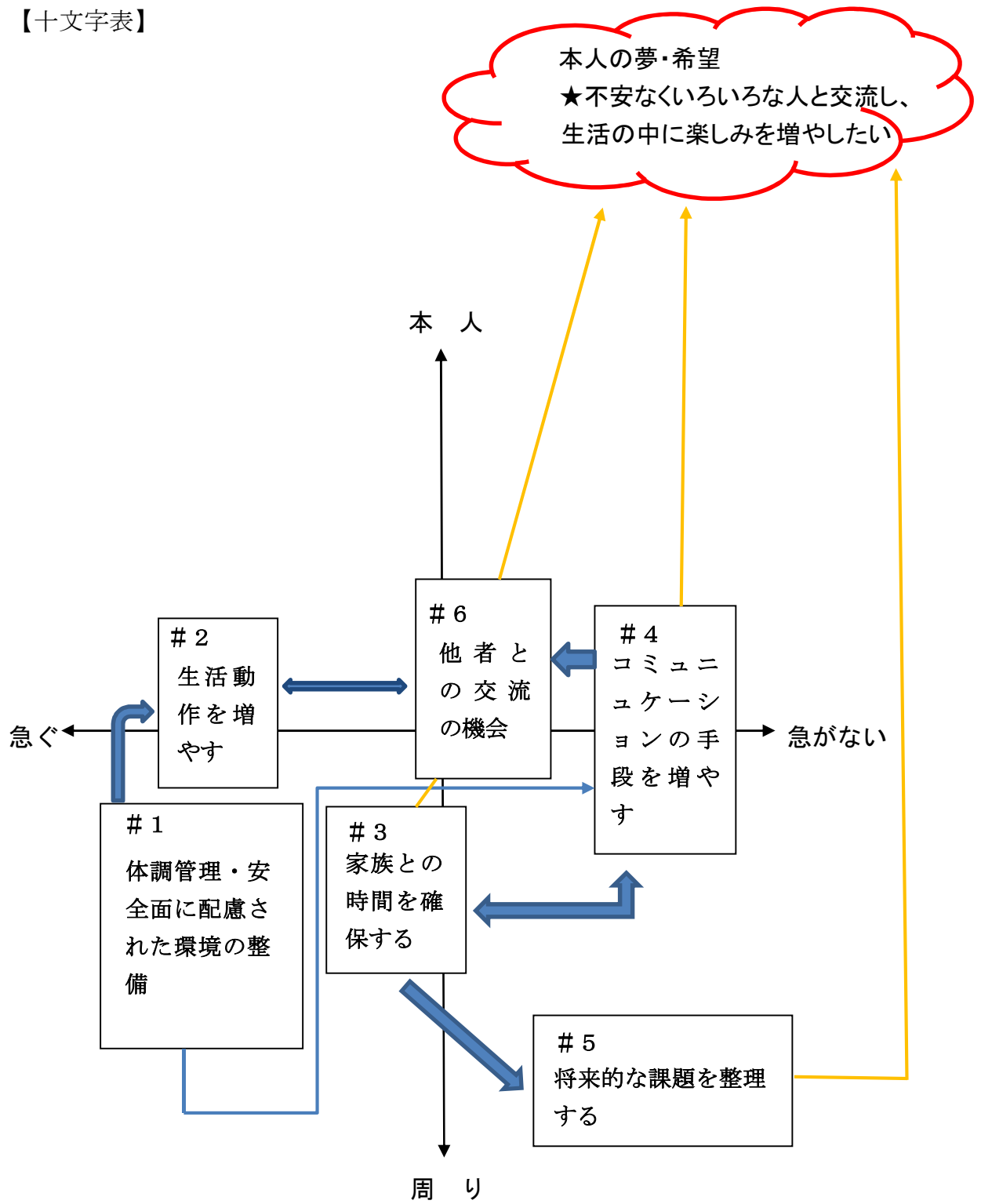
- # 6・他施設利用者との交流をし、新しい人間関係の
広がりを作る
 - ・他者との交流の場面を増やす
 - ・外出の機会を増やす
 - ・ボランティアとの関わりを検討し、ボランティアの情報収集を行う
 - ・作品を作り上げて、展示・発表できる機会を持つ
 - ・家族へ本人から〇〇をプレゼントする
- } ⇒（相談支援専門員・支援員
6か月以内）

*番号は、出された支援のアイデアに対し、事例提供者が実践したいと選択した支援の番号。

【地域課題（あったらいいな）】

- ・病院、入所施設と交流会があったらいいな
- ・ボランティアが活用しやすい地域になったらいいな（外出ボラ（リフト付車両）含む）
- ・ボランティアの育成に地域で取り組めたらいいな

【十文字表】



【相談支援専門員の見立て(アセスメント)】

長年家族と離れ入院してきた重症心身のケース。定期的に家族は面会に来ており、関係もよく、病院の支援者とも特に問題なく過ごしている。

しかし、両親の高齢化に伴い、面会の回数が減ってきていて、家族と過ごす時間など、今後の関わり方をどう捉えるかを考えていく必要があると思われた。また、長期の入院で単調になりがちな生活パターンの中で、支援が決まった形になってしまうこともある。本人の残存能力の維持、本人に合った社会参加、本人が主体的に楽しめることは何か、権利擁護など、ニーズの再確認や本人らしい社会生活について、多面的にこれからの支援を考えていくことが必要と考えた。

【支援の方向性（プランニング）】*支援のアイデアの選択の根拠

1 今までの安全な環境とは何か再度確認し、本人にとっての安全な環境を維持する

医療的なケアが必要な重症心身者の場合、怪我や生命に関わる危険が生じるリスクが高いが、病院の中での生活は、安全な環境と言える。しかし、必要以上に安全であることは成長や残存能力を弱めてしまう可能性があり、その時々本人の状態によって、安全な環境とは何か？を見極めていく必要がある。安全な環境を考えることは、さまざまなことにチャレンジする時のリスクや不安を小さくでき、本人の力を十分に発揮できる環境作りにつながり、本人らしい日常生活を維持するために必要なことと言える。

2 生活動作を増やし、残存能力の維持、向上を図る

残存能力に注目することは、当然大切な視点である。それを何気ない生活の動作の中に組み込むことで、毎日の生活の中で維持することができる。改めてリハビリという時間をとらなくても、能力の向上につながる可能性があり、必要な支援と言える。

3 家族と過ごす時間を確保し、一緒に楽しめるような活動をする

長年入院をしてきた本人にとって、家族と過ごす時間は限られてきた。また、両親の高齢化に伴い、今までのように面会に来ることが難しくなり、家族と過ごす時間がますます限られてくる可能性も高い。病院と自宅が離れている場合は尚更である。定期的に面会に来ているこの事例の場合は、面会時に本人と一緒に楽しめる活動（散歩や創作活動等）の機会を提供し、家族との思い出作りの支援を行うことは、本人、家族双方にとって必要であり、幸せで貴重な時間であると言える。

4 意思表示のレパトリーを増やす

本人が言葉での意思表示が難しい場合は、言葉以外の意志表示を読み取ること、そして、その意思を表現する手段確保が必要である。意思表示のレパトリーが増えること

は、コミュニケーション力の向上につながり、大切な視点といえる。この事例では、手を動かし、物を投げるといった動作が可能であり、その動作から検討するアイデアが挙げられており、#2の残存能力に注目してのアイデアと言える。

#5 今後のキーパーソンの検討（成年後見制度含む）

両親がキーパーソンであった場合、高齢化に伴い、次のキーパーソンについて必ず検討することになる。両親が病気等で倒れたときや亡くなってしまってからでは、十分な準備ができていないままでの検討となり、選択肢も狭くなってしまう。一方、両親にとっては、自分が生きているうちは自分でという強い思いを持っていたり、将来のイメージがついていない場合も少なくない。その思いを尊重しつつ、準備していくことが必要となる。他に適当なキーパーソンがない場合も多く、その場合は、後見制度等の活用も必要となるでしょう。

#6 いろいろな方と交流の機会を増やす

医療的ケアが常時必要な方だとリスクや介護により、外出等に制限がある。しかし、様々な生活体験が刺激となり、普段気づかなかった能力を本人自身が気づくばかりでなく、家族や支援者も発見することができる。本人は、外出時や家族との面会時、職員等と一緒に過ごしている時に笑顔がみられ、人との交流に拒否がないことから、外出の機会を増やすことは生活の張りにつながると言えるのではないかな。

[支援のポイント解説]

長年、外出や外泊の機会が少なく入院生活をしてきた重症心身の事例。このような事例の場合、病院の中でアセスメントを行い、個々の課題や状況に合わせておおよその支援が病院内で完結できている場合が多い。しかし、長期的な目標が見えにくく、余暇の充実や地域との関わり（社会参加）が少なくなる傾向がある。

今回の事例では、長期的な目標でもある余暇（生活の張り）の充実を念頭に、家族や他施設等との交流のアイデアが出されている。特に家族との残された時間ということに気づき、一緒に楽しむ時間を確保しようとしていることがポイントといえる。そして、交流するためにも新しい意思表示の手段がないかなど、生活動作の中での本人の今出来ていることに着目し、再検討していることもポイントといえる。また、将来的な見通しを踏まえ、サービス等利用計画に親亡き後のこと（成年後見制度含む。）について触れておくことも大切な視点と言える。

最後に相談支援専門員として、他施設等との交流が地域課題として挙げられている。これは、地域づくりや連携強化につながる地域課題であり、協議会等を通して課題提起することを期待したい。

サービス等利用計画・障害児支援利用計画

利用者氏名(児童氏名)	小山 花子様 (仮名)	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名
福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号		
計画作成日	平成27年9月1日	モニタリング期間(開始年月)	6か月(平成27年9月～平成28年8月)	利用者同意署名欄

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)

【本人】外出したい、外出が好き。父、母が大好きで一緒に過ごしたい(散歩時や家族と面会時に笑顔が見られる)。
 【家族】(両親)健康状態が悪化せず、安全が確保される環境で、身体の機能を維持し、楽しく過ごしてほしい。

総合的な援助の方針

体調管理や安全管理のある場所で、家族、他利用者、支援者等様々な人と交流しながら、楽しく、より笑顔で過ごせるように支援する。

長期目標

自ら活動を楽しめるようになり、身体機能を維持しながら、他者との交流を広げていく。

短期目標

健康状態を維持しながら、外出や他者との関わりを通して、生活の楽しみを増やす。

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	怪我や病気がなく暮らしていきたい	怪我や病気に対応できるような場所で生活できる	平成27年10月	療養介護(当該月の日数)	主治医・看護師・支援員	医師や看護師の指示を守り、健康に気をつける	平成28年2月	体調管理や怪我なく過ごせるような環境の確保、見守りを行う
2	出来ることを増やしたい	残存機能が維持しながら、怪我のリスクが少ない場所で、自力で出来ることが増える	平成28年2月	療養介護(当該月の日数)	主治医・看護師・支援員	医師や看護師、支援員の助言のもと、活動にトライしてみる	平成28年2月	怪我がないようにスペースを確保し、本人が楽しめるような活動を提案していく
3	家族に自分の活動している姿をみてもらいたい、もっと会う時間を増やしたい	安定した体調で楽しく活動に参加できる	平成28年8月	指定特定相談支援・療養介護(当該月の日数)	相談支援専門員・支援員	家族と一緒に時間を楽しむ	平成28年2月	
4	自分のことをもっと周囲に伝えたい	スムーズにコミュニケーションがとれるように、伝え方の種類が増える	平成28年8月	指定特定相談支援・療養介護(当該月の日数)	主治医・看護師・支援員・相談支援専門員・家族	自分の気持ちを正直に周囲に伝える	平成28年2月	小山さんの表情をよくみます。また意思表示のサインを見つける
5	これからのことを相談、準備したい	将来的な見通しをたてることで今後の生活の不安を減らしていきたい	平成28年8月	指定特定相談支援・療養介護(当該月の日数)	主治医・看護師・支援員・相談支援専門員・家族	不安や心配なことを意思表示する	平成28年2月	必要に応じて、成年後見制度の申請も検討する
6	もっといろいろな人と出合いたい	他者との交流の機会を持ちながら、楽しみが増える	平成28年2月	指定特定相談支援・療養介護(当該月の日数)	相談支援専門員・支援員・他施設職員	他者との時間を楽しむ	平成28年2月	市内や圏域内の他施設の利用者さんとの交流ができないか動きかける

サービス等利用計画・障害児支援利用計画【週間計画表】

利用者氏名(児童氏名)	小山 花子 様 (仮名)	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名	
福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月 平成27年9月

月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動	
6:00							起床	
7:00							朝食・服薬	
7:30							オムツ交換・清拭・水分補給	
10:00							リハビリ・個別活動	
12:00							昼食・服薬	
14:00							リハビリ・グループ活動(月・水・金)	
15:00							入浴(火・木)	
17:00							オムツ交換・水分補給	
21:00							夕食・服薬・自室で個別活動 服薬・就寝	
16:00	療養介護							
18:00	療養介護							
20:00	療養介護							
22:00	療養介護							
0:00	療養介護							
2:00	療養介護							
4:00	療養介護							
週単位以外のサービス ・月に1回、散歩や外出支援								

サービス提供
によって実現
する生活の
全体像

サービス等利用計画作成に当たり、本人の健康状態の維持はもちろんのこと、本人が「能動的」に『楽しめる』ことを増やすことを基本方針に、「身体機能の維持」「意思表示力の向上」「家族との交流」「余暇支援、対人交流の充実」「将来的に必要な準備をする」とい5つのニーズに着目した。今まで行っている動作にゲーム的な要素を加え、家族との思い出を作る、外出等も増やすことで感情表出できる機会をより一層確保することなどを通して、本人が自ら楽しんで活動できるような生活を目指している。両親が高齢になるにつれて、今後の財産管理も考慮し準備をすることで、本人も家族も安心して今後の生活を考えていける支援体制を組むことを重視して、本計画を作成した。